

第四次経営推進プランの経営目標に対する令和2年度達成状況について

長野県立総合リハビリテーションセンター

はじめに

総合リハビリテーションセンターでは、「第四次経営推進プラン(計画期間:平成30年度～令和2年度)」に基づき、経営を推進し、サービスの向上に取り組んでまいりました。

当プランに掲げる経営目標に対する令和2年度の達成状況について、次のとおり公表します。

第1 全体目標の達成状況

当センターでは、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い令和2年5月から感染患者を受け入れ、さらに令和3年3月からはワクチン接種を開始するなど、新型コロナウイルス感染症対策の一翼を担ってきました。

その一方で、感染患者の受け入れのために一定数の病床を休床としたほか、外来診察時間内にワクチン接種を行うなどの対応が必要になったことにより、使用料収入に大きな影響がありました。

全体目標	令和2年度実績	備考
① センター使用料収入額 <u>13億円以上</u> の達成	使用料収入 4億5,423万円余 病床確保補助金 5億5,649万円余 合計 10億1,072万円余	使用料収入の内訳 医業収入 3億9,134万円余 施設収入 6,288万円余
② 病院部門における職員給与費の <u>1.9倍以上</u> の医業収入の確保	使用料収入(医業)のみ 0.64倍 病床確保補助金を含む 1.55倍	職員給与費 6億1,157万円余

(1) センター使用料収入額について

- 新型コロナウイルス患者専用病床を確保したことに伴い一般の入院患者の受け入れや手術件数が減少したため、医業収入は3億9,134万円余と前年度に比べ47.9%減少しました。
- 施設収入は、6,288万円余となり、前年度に比べ25.8%減少しました。
- 新型コロナウイルス患者の受け入れに伴う空床確保補助金として、5億5,649万円余の収入がありました。
- 医業収入と施設収入を合わせたセンター使用料収入額は4億5,423万円余で、病床確保補助金を含めると10億1,072万円余となりましたが、いずれもプランの全体目標である「13億円以上」は未達成となりました。

(参考) << 医業及び施設収入の推移 >> (単位:百万円)

(年度)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
医業収入	1,284	1,244	1,142	1,160	751	391
施設収入	166	165	132	147	85	63

(2) 職員給与費について

- 医業収入の3億9,134万円余は、病院部門の職員給与費6億1,157万円余の0.64倍となりました。医業収入に空床確保補助金5億5,649万円余を加えた収入9億4,783万円余と比較すると1.55倍となりましたが、いずれもプランの全体目標である「1.9倍以上」は未達成となりました。

第2 個別目標の達成状況

各部署の業務等に関し設定している個別目標の令和2年度までの達成状況は次のとおりです。

更生相談件数、出前講座開催件数(3年間)、看護師数、ジェネリック薬品使用率など項目については目標を達成することができましたが、新型コロナウイルス感染症などによる影響で、プランに掲げた経営目標の多くが目標を下回る結果となりました。

区 分		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和2年度 目標値
更生 相談	更生相談件数	8,553 件	8,502 件	7,300 件
	出前講座開催件数(3年間) ※1	21 件	21 件	20 件
障 が い 者 支 援 施 設	新規施設利用者数	26 人	34 人	61 人
	うち病院部門経由	9 人	10 人	20 人
	1日平均利用者数 ※2	25.4 人	22.1 人	56.0 人
	施設利用率 ※3	31.9 %	27.6 %	70.0 %
	理学療法実施延べ人数	3,964 人	4,015 人	8,000 人
	理学療法実施総時間数	3,693 時間	3,203 時間	5,500 時間
	作業療法実施延べ人数	3,553 人	3,238 人	7,000 人
	作業療法実施総時間数	3,300 時間	2,921 時間	6,000 時間
医 療	医師数 ※4	5 人	5 人	7 人
	看護師数 ※4	55 人	54 人	54 人
	外来患者数	14,332 人	11,034 人	20,000 人
	手術件数(整形外科)	214 件	39 件	400 件
	神経ブロック件数 ※5	50 件	3 件	110 件
	入院患者数	273 人	200 人	620 人
	病床利用率(1階病棟) ※6	36.1 %	48.3 %	73.0 %
	病床利用率(2階病棟) ※6	31.9 %	11.6 %	78.0 %
	2階病棟個室利用率	44.4 %	2.3 %	88.0 %
	平均在院日数(1階病棟)	70.0 日	112.3 日	80.7 日
	平均在院日数(2階病棟)	14.8 日	12.7 日	19.4 日
	転院患者受入件数(1階病棟)	33 件	93 件	80 件
	MRI依頼検査件数 ※7	20 件	21 件	53 件
	CT依頼検査件数 ※7	0 件	0 件	5 件
	ジェネリック薬品使用率 ※8	75.8 %	84.2 %	80.0 %
	理学療法実施延べ人数	8,986 人	7,726 人	18,000 人
	理学療法実施総単位数	20,650 単位	18,579 単位	35,500 単位
	作業療法実施延べ人数	4,655 人	5,671 人	9,100 人
	作業療法実施総単位数	9,244 単位	11,281 単位	16,900 単位
	言語聴覚療法実施延べ人数	2,071 人	2,053 人	4,500 人
	言語聴覚療法実施総単位数	3,934 単位	3,667 単位	8,750 単位
	義肢装具製作件数	109 件	116 件	190 件
	義肢装具修理件数	145 件	126 件	200 件

区 分		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和2年度 目標値
エコロジー &エコノミー	電気使用量の削減 ※9	30.2 % 削減	12.1 % 削減	1.5 % 削減
	燃料(灯油、重油)使用量の削減 ※9	28.1 % 削減	0.2 % 増加	5.0 % 削減
	水道使用量の削減 ※9	17.1 % 削減	2.3 % 増加	3.0 % 削減
	用紙類の削減 ※9	21.2 % 増加	39.2 % 増加	5.0 % 削減

(注)

- ※1 出前講座開催件数(3年間)は、令和元年度実績は平成 30 年度実績～令和元年度の合計値、令和2年度実績及び令和2年度目標値は平成 30 年度～令和 2 年度の合計数値
- ※2 1日平均利用者数は、(日中活動支援付短期入所者を含む入所者数+通所利用在籍者)÷365 日
- ※3 施設利用率=1日平均利用者数÷定員 80 人×100
- ※4 医師数及び看護師数数は、代替職員を含み、休業中の職員を含まない。
- ※5 より高度な全身管理を必要とするため、手術室において行う神経ブロック件数
- ※6 病床利用率=(在院患者延数+退院患者数)÷(365 日×40 床)×100
- ※7 MRI依頼検査件数、CT依頼検査件数は、他院からの依頼を受けて実施する件数
- ※8 ジェネリック薬品使用率は数量ベースで、各年度最終月の実績
- ※9 電気使用量、燃料(灯油、重油)使用量、水道使用量、用紙類の各年度実績及び目標値は、基準年度(平成 28 年度)の使用量に対する増減率

[更生相談]

- 更生相談件数は、R元年度実績を下回りましたが、R2年度目標を上回りました。
- 出前講座開催件数はR2年度目標を上回りました。

[障がい者支援施設]

- 新規施設利用者数は、R元年度実績を上回りましたが、R2年度目標を下回りました。
- 1日平均利用者数及び施設利用率は、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。
- 理学療法は、実施延べ人数はR元年度実績を上回りましたが、実施総時間数はR元年度実績を下回り、いずれもR2年度目標を下回りました。
- 作業療法は、実施延べ人員及び実施総時間数ともに、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。

[医 療]

- 医師数は、令和2年1月末で医師1名が退職し、整形外科医 2 名欠員の状態が続いています。
- 看護師数については、目標の人員を確保することができました。
- 脊椎手術・関節手術等の手術件数(整形外科)及び神経ブロック件数とも、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。
- 外来患者数及び入院患者数とも、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。
- MRI 依頼検査件数は、R元年度実績を上回りましたが、R2年度目標を下回りました。
- ジェネリック薬品使用率は、R元年度実績、R2年度目標を上回りました。
- 作業療法は、実施延べ人員及び実施総単位数ともR元年度実績を上回りましたが、R2年度目標を下回りました。
- 理学療法及び言語聴覚療法は、実施延べ人員及び実施総単位数とも、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。

[補装具]

- 義肢装具製作件数は、R元年度実績を上回りましたが、R2年度目標を下回りました。
- 義肢装具修理件数は、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。

[エコロジー&エコノミー]

- 電気使用量はR元年度実績を下回りましたが、R2年度目標を上回りました。
- 燃料(灯油、重油)、水道使用量及び用紙類は、R元年度実績、R2年度目標を下回りました。

おわりに

第四次経営推進プランの計画期間中は、令和元年10月の東日本台風(台風第19号)による浸水被害を受けての半年にわたる運営休止に続き、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う感染症対策が計画期間を過ぎてもなお継続するなど、避けがたい自然災害と疫病に翻弄され続けることとなりました。

しかしながら、県直営の唯一の医療機関としての役割や使命を果たすべく、天災からの復旧を果たし、県民の皆様の命と健康を守るための活動に取り組んでまいりました。

今後、一日も早く通常の生活や活動ができる日が来ることを祈りつつ、障がいをもつ方々のリハビリテーションの提供や更生相談等を通じ、誰もが社会の一員として活躍できるようになることを目指し、職員一同努力してまいります。